



発行所 国鉄労働組合長野地方本部  
長野市中御所3-2-22  
発行者 平山芳夫  
編集者 清水孝次

2008年7月15日  
第1456号

●国労加入を  
大胆に訴えよう！

# 「地域住民の足」 在来線を守ろう！

## 本部主催「第1回整備新幹線並行在来線対策会議」

6月22日、国労本部は東京で各エリア、関係地本、全貨協の代表者など20名を集め、第1回整備新幹線並行在来線対策会議を開催した。並行在来線問題は北陸新幹線、東北新幹線、東海新幹線、九州新幹線、長崎ルートの3箇所に及び、在来線の存続の意義が問われている。

会議は田中本部副委員長（対策会議の責任者）の挨拶で始まり、日本大学商学部教授の桜井徹教授から「並行在来線青い森鉄道存続の方策はなにか」と題して講演を受けた。

### 在来線を犠牲にするな

教授は、ドイツの新幹線と並行在来線の経営手法と日本との違いを報告した。①ドイツでは並行在来線は分離されず、政府が責任を持って在来線の整備を行っている。



②二酸化炭素の削減のため、トラックには利用料金を科し、排気ガス削減に努め、その資金を鉄道への投資に使っている。③日本では並行在来線は地域住民の足として、なくてはならないものと位置付けられ貨物輸送を維持してゆくと同時に並行在来線存続

は重要になってきている。④環境問題を考えても貨物輸送と自動車とを比較すれば二酸化炭素の排出量は自動車に比べ、貨物輸送は非常に少なく地球温暖化の歯止めとなる。結びとして、在来線の経営分離は「日本的」特徴で、分離しても政府の鉄道維持責任は存在する。また、在来線の経営方策として「政府与党合意」を前提とした存続方策は限界にきていることを指摘、根本的にはガソリン税の転用など政府の助成措置が必要であり、JRの利益を考えるとその社会的責任を考えざるを得ないし、その利益は誰が積み立てたかをみると在来線がその犠牲になることは許されない。と述べた。



①対策会議設置の経過と目的  
②対策会議の構成

③会議の進め方と今後のスケジュール  
以上3点の提起があり、

④環境問題を考えても貨物輸送と自動車とを比較すれば二酸化炭素の排出量は自動車に比べ、貨物輸送は非常に少なく地球温暖化の歯止めとなる。結びとして、在来線の経営分離は「日本的」特徴で、分離しても政府の鉄道維持責任は存在する。また、在来線の経営方策として「政府与党合意」を前提とした存続方策は限界にきていることを指摘、根本的にはガソリン税の転用など政府の助成措置が必要であり、JRの利益を考えるとその社会的責任を考えざるを得ないし、その利益は誰が積み立てたかをみると在来線がその犠牲になることは許されない。と述べた。

## 退職者慰労会を開催

地方本部は、2007年度退職者慰労会を6月21日にホテルメトロポリタン長野で開催しました。今年度の対象者は26名で、参加された方は家族を含めて16名となりました。

「長い間大変ご苦労さまでした」の看板のもと、平山芳夫委員長からの先輩諸氏に対する感謝とねぎらいの挨拶があり、感謝状および記念品の贈呈が行われました。

最初ということ各地方からの報告を受け会議を終了した。  
長野以北の在来線  
北陸新幹線開業に伴う長野以北の並行在来線問題も、現在開かれている長野県議会でも活発な議論が行われている。

国労も今回の対策会議を通じ、並行在来線存続に向け関係地本との連携を強め、地域、県、など意見交換を行い、世論喚起の宣伝や集会を開催し、その当該線区の安全問題・雇用問題などJRとの交渉も視野に入れた運動を取り組むように問題が提起され、2009年1月開催予定の第179回拡大中央委員会に具体的な運動の進めかたの提出を予定している。



(伊藤公正)

# 私たちも国労！お父さんも協力してね！

## 国労長野家族会連合会 第14回定期総会開催

6月29日、国労長野家族連合会委員長をはじめ執行委員、各地区は、信州新町・さざり荘において協会の役員、組合員も参加しての総会の体操(クイズ)等を行い親睦交流した。

第14回定期総会を開催した。  
東日本本部から伊藤秀樹委員長  
を招き、地方本部からは平山芳夫  
トゴルフを予定していたが、あい

総会は、久保田勝美副会長の進行で開会し、はじめにあいさつに立った山崎みどり会長は「家族会に参加する顔ぶれが決まってきているのが現状。長野だけでなく全国でも同じ状況となっ

ている。もう一度原点に戻って、家族会を盛り上げていきましょう」と参加した組合員に熱い言葉を投げかけた。来賓として参加した平山委員長は、うれしい報告を



させていただく」と述べ、「昨年の2名に続き今年4月には平成採用の女性組合員が、5月には新規採用の組合員が誕生した」と組織拡大の報告とともに家族への感謝とねぎらいのあいさつをした。

東日本本部伊藤委員長は「長野地本は、組織拡大の牽引的役割を果たしている。闘争団支援においても全国でダントツの取り組みをしていただいている。家族の支えがあつたこと」と家族会に対し感謝を述べた。また、1047名不採用事件については、民主党を窓口政治の場での解決を図るべく、司法の場での和解も視野に入れ、大衆行動を含めた闘いを展開している現状。JR会社との和解については、職場の状況に即した闘いを検討している、など闘いの現状を丁寧に報告した。

つづいて、佐藤正幸書記長から国鉄闘争の情勢について報告を受け、特に夏季物販では「紋別・美幌闘争

団への支援が再開できた。今まで以上の取り組みをお願いしたい」と家族の理解と協力を要請した。また、アルピコグループの事業再生問題、信南交通、新幹線並行在来線問題など公共交通を巡り、利用者にとって厳しい状況となっている。在来線の存続、赤字バス路線の存続など地域の立場に立って残していく取り組みをしていこうと訴えた。

議題に入り、竹内家族会担当職員から、経過報告、2007年度決算及び2008年度予算、山崎会長から2008年度の活動、役員



最後に山崎会長は、あらためて家族会を盛り上げるために、家事を手伝うなどお父さんたちの協力を要請した。

総会終了後、交流会となり、雨のため中止となったマレットゴルフに変わって、歴史問題、沖縄問題、サミットにまつわる問題など多彩な内容のクイズに頭を悩ませ、賞品を獲得するなど和やかに楽しいひとときを過ごした。

家族の理解・協力も



運動には大切です。お父さんたちの協力をお願いします。

### “オルグを終えて” 紋別・美幌闘争団から

ただけでも今回のオルグは大きな成果があったと思います。ありがとうございました。

JR採用差別事件の闘いはいよいよこれから大詰めを迎えることとなります。国鉄改革法23条という恐ろしい仕組みによって、不当労働行為の責任の所在が明確になるまで15年間の回り道をさせられたことは痛恨の出来事ですが、いよいよその決着をつける時が近づいていることを実感しています。私たち当事者としては、年内から遅くとも来年前半くらいまでには政治に解決の決断をさせるために、単なる願望ではなく決意として闘いを集中させて奮闘する決意です。

今回のオルグでは、多くの皆さんにお世話になり、またたくさんのカンパも頂戴しました。重ねてお礼を申し上げ、今後とも闘い続ける決意を申し上げます。

2008年6月  
国労紋別闘争団 団長 清野 隆  
国労美幌闘争団 団長 長縄 孝則

過日の私たち紋別・美幌闘争団のオルグに際しましては本当にお世話になりました。無事にオルグを終えて地元に戻ってさっそく各団員・家族に経過などを報告をしています。

私たち美幌・紋別両闘争団にとっては6年ぶりの長野県でのオルグですが、過去の経過があっただけに皆さんからどのような反応があるかいささかの心配もありました。しかしそれらはほぼ杞憂に終わりました。まるで6年間の空白がなかったかのように自然に受け入れていただいたと言うのが率直な感想です。それだけ90年から02年までの間の皆さんとの積み重ねが大きかったのだと思います。

もちろん「支援凍結」に至った経緯の全てが無かったことになるはずありません。しかし6年の時間を経て、あの時お互いがどのような思いでいたのか、意見の違いがなぜ生まれたのかなどを理解できるようになったのだと思います。その相互の理解があつてはじめて「過去の経過を脇に置いて」団結を回復できたと理解しています。そうした理解が深まっ

◆退職の際は、鉄道退職者の会への加入を！◆  
◎鉄道退職者の会 長野地方連合会  
電話 026-226-6658

◆交運共済からのお知らせ◆  
マイカー共済の新規加入を！  
◎全国交運共済生協 長野事業部  
電話 026-291-5057 JR:067-2583